

## M7CL V3.5 追補マニュアル

この追補マニュアルでは、M7CLファームウェアV3.5で追加/変更された機能を中心に説明します。M7CL V3取扱説明書と併せてご利用ください。

### 主な変更点

#### ■ AuviTran Network ASIO Streamerに対応 (M7CL-48ES)

- M7CL-48ESの[3rd]端子とコンピューターをLANケーブルで接続することで、ダイレクトレコーディングやDAWソフトウェアの再生音を使ったサウンドチェックができるようになりました(2ページ)。

#### ■ スロットに接続された外部ヘッドアンプのリモート操作に対応 (M7CL-48ES)

- M7CL-48ESのスロット1経由で接続された外部ヘッドアンプのリモート操作ができるようになりました(4ページ)。

#### ■ ALTERNATE機能を追加

- ALTERNATE機能を割り当てたユーザー定義キーを押したままSELECTED CHANNELエリアのエンコーダー操作をすると、パラメーターのオン/オフ切り替えなどができるようになりました(6ページ)。

#### ■ EQの操作性向上

- EQ [Q]エンコーダーでピーキングとシェルビングのタイプが変更できるようになりました(7ページ)。
- PEQのQのパラメーター値が16まで対応しました。

#### ■ ファイルロードのオプションを追加 (M7CL-48ES)

- M7CL設定ファイル(\*.M7C)をロードするとき、AUTO CONFIGUREの設定を本体に反映するかどうかを選択できるようになりました。(7ページ)。

#### ■ HAエンコーダーによるアッテネーション値の操作に対応

- USER SETUPポップアップウィンドウのPREFERENCEページにHA KNOB FUNCTIONを追加しました。SELECTED CHANNELエリアのHAエンコーダーを回したときにヘッドアンプのゲイン値を変更するか、デジタルのアッテネーション値を変更するかを選択できます。この設定はOVERVIEW画面でも反映されます。

#### ■ その他

- SEND LEVELノブの指標の色でPRE/POSTがわかるようになりました(7ページ)。
- インプット系チャンネルの[SEL]キーを二つ同時に押すとCH LINK MODEポップアップウィンドウが表示されるようになりました。
- CH LINKのパラメーターにATTを追加しました。
- 他のユーザーがロックしたコンソールであっても、管理者パスワードでロックを解除できるようになりました。

## AuviTran Network ASIO Streamerに対応

M7CL-48ESの[3rd]端子とコンピューター (AuviTran Network ASIO Streamer Driverインストール済み)をLANケーブルで接続することで、ダイレクトレコーディングやDAWソフトウェアの再生音を使ったサウンドチェック(以降、サウンドチェック)ができるようになります。

事前にダイレクトレコーディングをしておくことで、例えば、その音源を使ってサウンドチェックをしたり、リハーサルをシミュレーションしたりできます。

ダイレクトレコーディングをするときはFROM STAGE BOXモード、サウンドチェックをするときはFROM DAWモードに切り替えます。

コンピューターと音声信号を送受信するためには、ファームウェアを以下のバージョンにアップデートする必要があります。

- M7CL-48ES本体：V3.5以降
- EtherSoundモジュール：OC18以降

EtherSoundモジュールおよびAuviTran Network ASIO Streamerに関する最新情報は、AuviTran社のウェブサイトをご確認ください。

<http://www.auvitran.com/>

また、コンピューターには以下のソフトウェアをインストールする必要があります。

- AuviTran Network ASIO Streamer：V1.2.5以降
- ASIOに対応したDAWソフトウェア

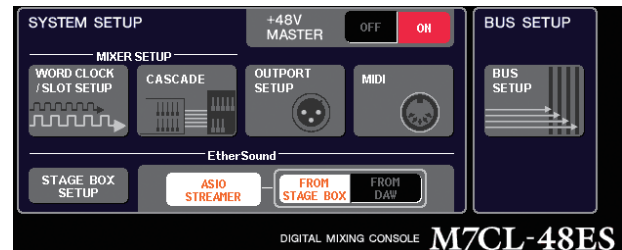
### NOTE

- コンピューター側の設定およびソフトウェアの使用方法については、AuviTran Network ASIO StreamerのUser's Manualおよび各DAWソフトウェアの取扱説明書をご参照ください。
- FROM DAWモードのとき、ファンクションアクセスエリアの時刻表示部が、時刻と[FROM DAW]を交互に表示します。
- AuviTran Network ASIO Streamerによって自動的にEtherSoundモジュール内のパッチングは変わりますが、M7CL-48ESのパッチングは変わりません。
- ES OUTの1～24は常にSTAGE BOXに送信されています。

## ダイレクトレコーディングをする

コンピューターにダイレクトレコーディングするためには、M7CL-48ESの設定を以下の手順で切り替えます。

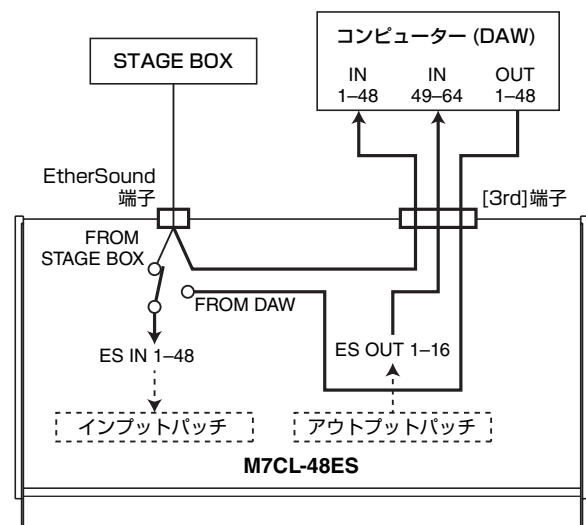
- 1 SETUPボタンを押して、SETUP画面を呼び出します。
- 2 ASIO STREAMERボタンとFROM STAGE BOXボタンを押して点灯させます。



- 3 SETUPボタンを押して、SETUP画面を閉じます。

この設定によってコンピューターはM7CL-48ESのES IN 1～48に入力される音声信号とM7CL-48ESのES OUT 1～16から出力される音声信号を受信します。M7CL-48ESはES IN 1～48にSTAGE BOXからの音声信号を受信します。

### FROM STAGE BOX



## サウンドチェックをする

コンピューターに録音された音声を使ってサウンドチェックするためには、M7CL-48ESの設定を以下の手順で切り替えます。

### NOTE

- ・ FROM DAWモードでは音声信号がコンピューターを経由するため、音声信号に遅延が発生します。サウンドチェックが終わりましたら、FROM STAGE BOXモードにするか、ASIO STREAMERボタンを押してオフ(消灯)にしてください。

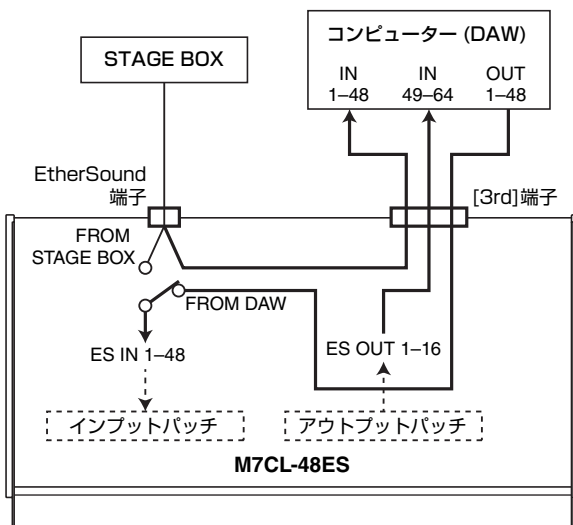
- 1 SETUPボタンを押して、SETUP画面を呼び出します。
- 2 ASIO STREAMERボタンとFROM DAWボタンを押して点灯させます。



- 3 SETUPボタンを押して、SETUP画面を閉じます。

この設定によってコンピューターはM7CL-48ESのES IN 1~48に入力される音声信号とM7CL-48ESのES OUT 1~16から出力される音声信号を受信します。M7CL-48ESはES IN 1~48にコンピューターからの音声信号を受信します。

### FROM DAW



### NOTE

- ・ FROM DAWモードで再起動すると、FROM STAGE BOXモードに切り替わって起動します。

## スロットに接続された外部ヘッドアンプのリモート操作に対応

M7CL-48ESのスロット1経由で接続された外部ヘッドアンプのリモート操作ができるようになりました。

M7CL-48ES搭載のEtherSound端子と併用することで、AD8HRを最大12台またはSB168-ESを最大6台までリモート操作できます。

### NOTE

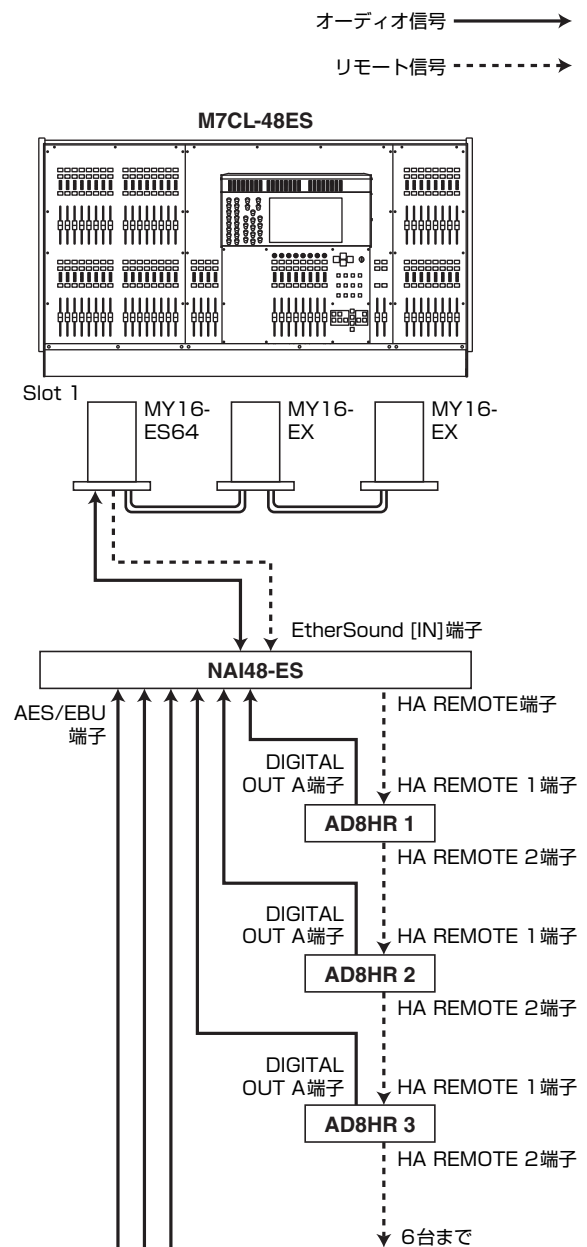
- ・スロットを経由する場合は、AVS-ESMonitorを使ってEtherSoundの設定をしてください。
- ・本体のEtherSound端子も使う場合、別々のEtherSoundネットワークとして構築してください。もし同じEtherSoundネットワークとして構築した場合、ワードクロックが非同期になったり、リモート操作ができなくなったりします。

## M7CL-48ESのスロットを使用してAD8HRを接続

M7CL-48ESのスロットを使用してAD8HRをリモート操作するには、EtherSoundカードMY16-ES64をM7CL-48ESのスロット1に装着して、MY16-ES64のEtherSound [OUT]端子とNAI48-ESのEtherSound [IN]端子をEthernetケーブルを使って接続します。

AD8HRに入力された信号をM7CL-48ESに送るには、AD8HRのDIGITAL OUT A(またはB)とNAI48-ESのAES/EBU端子をD-sub25ピンAES/EBUケーブルを使って接続します。NAI48-ESからM7CL-48ESへはEtherSoundで信号が送受信されます。

また、“デージーチェーン”と呼ばれる接続方法を使って、複数のAD8HRを同時にリモート操作することも可能です。これを行なうには、AD8HRのHA REMOTE 2端子を、2台目のAD8HRのHA REMOTE 1端子に接続します。NAI48-ESを使った場合、最大6台のAD8HRを接続できます。



## M7CL-48ESのロットを使用して SB168-ESを接続

M7CL-48ESのロットを使用してSB168-ESをリモート操作するには、EtherSoundカードMY16-ES64をM7CL-48ESのロット1に装着して、EthernetケーブルでSB168-ESと接続します。

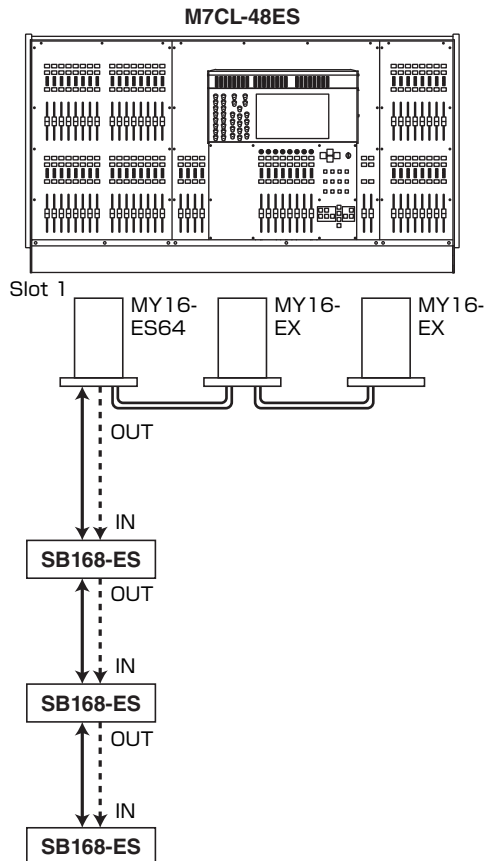
また、複数のSB168-ESをデジチェーン接続またはリング接続して、M7CL-48ESのロットに拡張カードMY16-EXを2枚装着することにより、最大3台のSB168-ESを同時にリモート操作することも可能です。

### NOTE

- ・本体のEtherSound端子も使う場合、両方のEtherSoundネットワークを同時にリング接続しないでください。ワードクロックの同期がとれなくなります。

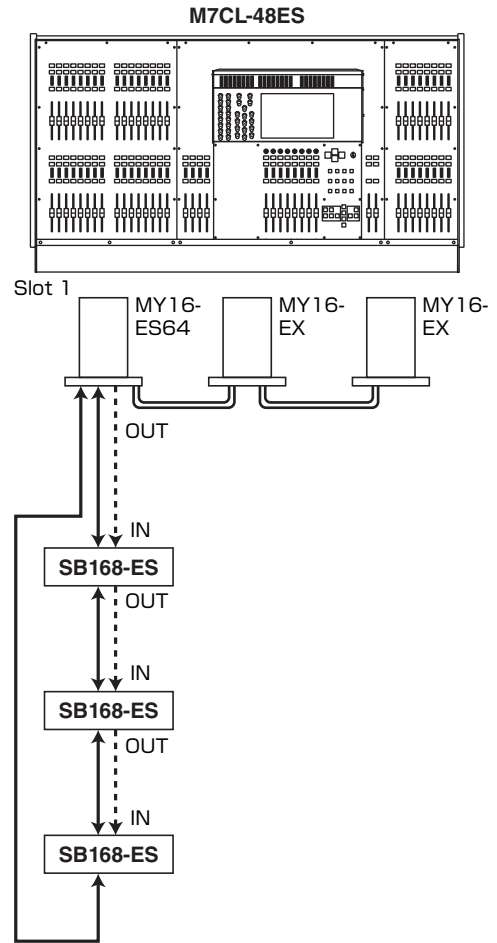
### ● デジチェーン接続

オーディオ信号 →  
リモート信号 - - - - ->



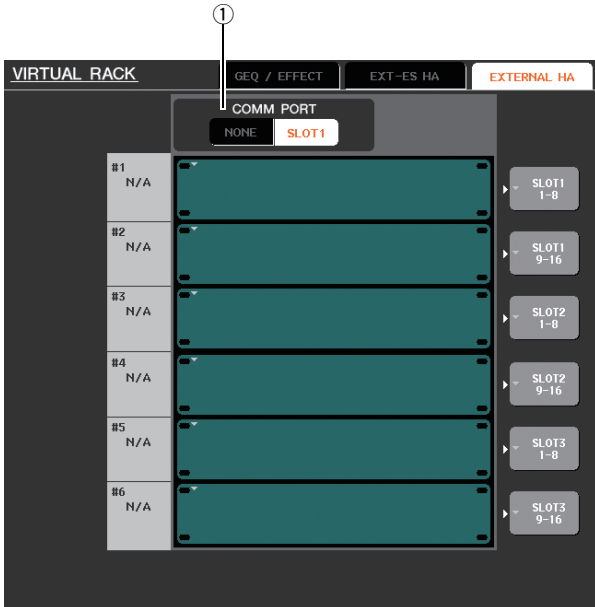
### ● リング接続

オーディオ信号 →  
リモート信号 - - - - ->



## スロットに接続された外部ヘッドアンプのリモート操作

M7CL-48ESのスロットを使用して接続された外部ヘッドアンプのリモート操作のために、RACKボタンを押して表示されるVIRTUAL RACKウィンドウにEXTERNAL HAタブを追加しました。



### ① COMM PORT

M7CL-48ESのスロットを使用して接続された外部ヘッドアンプをリモート操作するかどうかを設定します。リモート操作をするときは[SLOT 1]ボタンを押して点灯させてください。リモート操作をしない場合は[NONE]ボタンを押して点灯させてください。

#### NOTE

- ・ MIDIメッセージの送信または受信を行なうポートをSLOT 1に設定している場合、リモート操作はできません。リモート操作をする場合はMIDIのポートをSLOT 1以外にしてください。
- ・ 操作の詳細についてはM7CL V3取扱説明書の「外部ヘッドアンプをリモート操作する」をご参照ください。

## ALTERNATE機能を追加

ALTERNATE機能を割り当てたユーザー定義キーを押したままエンコーダー操作をするとオン/オフの切り替えなどができるようになりました。

ALTERNATE機能が割り当てられたユーザー定義キーを押した状態(オンの状態)をALTERNATEモードといいます。

#### NOTE

- ・ ALTERNATE機能ではLATCHとUNLATCHが選択できます。UNLATCHにするとユーザー定義キーを押しているときのみALTERNATEモードがオンになります。LATCHにするとALTERNATEモードのオン/オフになり、ユーザー定義キーを押したままにしながらも機能を利用できます。
- ・ ALTERNATEモードはOVERVIEW画面とSELECTED CHANNEL VIEW画面の切り替えやポップアップウィンドウの表示などでオフになります。
- ・ ALTERNATEモードのとき、ファンクションアクセスエリアのユーザー名にALTが表示されます。

ALTERNATEモードのときに動作が変わるエンコーダーとその動作は以下のとおりです。

- ・ **[HA] エンコーダー**  
回すとアッテネーション値を調整できます。USER SETUPポップアップウィンドウのPREFERENCEページのHA KNOB FUNCTIONで[ATT]を選択している場合は、ヘッドアンプのゲイン値を調整できます。
- ・ **[MIX/MATRIX] エンコーダー**  
回すと該当するセンドのPRE /POSTを切り替えられます。  
押すと該当するセンドのオン/オフが切り替わります。
- ・ **[HPF] エンコーダー**  
押すとハイパスフィルターのオン/オフが切り替わります。
- ・ **[DYNAMICS 1] エンコーダー**  
押すとDYNAMICS 1のオン/オフが切り替わります。
- ・ **[DYNAMICS 2] エンコーダー**  
押すとDYNAMICS 2のオン/オフが切り替わります。

#### NOTE

- ・ ALTERNATEモードのときには、SELECTED CHANNELセクションの上記以外のエンコーダーの機能は無効になります。

## EQの操作性向上

タイプが変更できるLOWバンドやHIGHバンドが選択されているときのEQ[Q]エンコーダーでは、Qが最大値または最小値のときにエンコーダーを押しながら回すことでタイプが変更できるようになりました。

### LOWバンド：

- Qが最小値のときにエンコーダーを押しながら右に回すと、LOWシェルビングに変わります。
- Qが最大値のときにエンコーダーを押しながら左に回すと、ハイパスフィルターに変わります (MIX, MATRIX, STEREO, MONOチャンネルのみ)。

### HIGHバンド：

- Qが最小値のときにエンコーダーを押しながら右に回すと、HIGHシェルビングに変わります。
- Qが最大値のときにエンコーダーを押しながら左に回すと、ローパスフィルターに変わります。

シェルビング、ハイパスフィルター、ローパスフィルターのときも同様に押しながらエンコーダーを回すとタイプが変わります。

## ファイルロードのオプションを追加

M7CL設定ファイル(\*.M7C)をロードするとき、AUTO CONFIGUREの設定を本体に反映するかどうかを選択できるようにしました。

STAGE BOX DATA CONVERSIONダイアログでファイルを変換してロードするときもこの選択肢は有効となります。



①

### ① [WITH AUTO CONFIGURE SETTING] ボタン

ボタンを押してオンにすると、M7CL設定ファイル(\*.M7C)に保存されているAUTO CONFIGUREの設定をロードするとき、本体に反映させます。

## その他

### 画面に表示されるノブの指標の色の変更

OVERVIEW画面、SELECTED CHANNEL VIEW画面、MIX/MATRIX SENDポップアップウィンドウのSEND LEVELノブの指標の色でPRE/POSTがわかるようにしました。



PRE(白)



POST(黒)

# ヤマハ株式会社

ヤマハプロオーディオウェブサイト：  
<http://proaudio.yamaha.co.jp/>  
ヤマハマニュアルライブラリー：  
<http://www.yamaha.co.jp/manual/japan/>

U.R.G., Pro Audio Division  
© 2010 Yamaha Corporation

012POTO-A0  
Printed in Japan

WY16620